

株主のみなさまへ

# TOWA REPORT



## 第54期 第2四半期事業のご報告

平成21年4月1日～平成21年9月30日



東和薬品株式会社

### CONTENTS

ごあいさつ	1
半期の取り組み	2
業績の概要	3
中期経営計画と推進状況	5
連結財務諸表(要約)	7
ニュース&トピックス	9
会社の概況と株式の状況	10



代表取締役社長  
吉田 逸郎

### 「社長のひとこと」

政治の世界では、民主党への政権交代がありました。新政権の医薬品政策に対する方向性はまだ明確になっていませんが、「ムダをなくす」という観点からすれば、後発医薬品の使用促進の流れは止まることはなく、むしろ、もっと加速していく可能性が高いと考えています。

## ごあいさつ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社の第54期第2四半期の事業のご報告（平成21年4月1日から平成21年9月30日）をお手元にお届けいたします。

今期は、中期経営計画の2年目にあたります。主要課題である「信頼性の確立」「診療所・中小病院・保険薬局市場の強化」「製剤技術・製造技術の向上」に向けたさまざまな取り組みの結果、薬局市場の拡大、大病院との直接取引による売上増、当社独自のRACTAB技術を駆使したアムロジピンOD錠「トーワ」の成長などにより、本第2四半期の業績は、ほぼ当初計画どおり順調に推移いたしました。

一方、国の後発医薬品使用促進のための環境整備にもかかわらず、残念ながら後発医薬品の浸透そのものは思ったほどは進んでおりません。当社といたしましては、なお一層の「安定供給」「品質確保」「情報提供」への取り組みを進め、来るべき本格的なジェネリック医薬品の時代に、ジェネリックメーカーの中でもっとも信頼される会社となれるよう、努力を重ねることがなによりも重要であると考えております。

来年3月には、いよいよ山形新工場の建設が始まります。平成24年3月の新工場稼働により、大阪工場、岡山工場と合わせ、国内でも有数の生産体制が確立します。山形新工場への投資は、当社の成長の礎と確信しておりますので、株主の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

利益配分にあたっては、年来ご支援いただいている株主の皆様への安定的な配当と、山形新工場の設備投資を控えている時期であることを総合的に勘案し、期初計画通り中間配当は1株当たり22円50銭とさせていただきます。

内部留保金につきましては、中長期的視点からの経営体質の強化、企業価値の向上を図るために、研究開発力の充実、生産能力向上・効率化のための設備投資、特に山形新工場の建設、営業体制の拡充・強化などに充てさせていただきますと存じます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年12月

# 東和薬品この半期の取り組み



朝日新聞朝刊に「わかるわかる運動」  
として広告を掲載(4月26日)

「学術部DIセンター」が  
オープン(4月1日)

医療関係者からの電話に対し、  
24時間365日受付での対応  
をはじめました。



日本ジェネリック医薬品学会  
「第3回学術大会」

6月27日・28日の2日間にわ  
たり開催された大会に、当社  
も展示ブースの出展、シンポ  
ジウムへの参加、企業紹介  
プレゼンテーションなどで  
PR活動を展開。

水都大阪2009「水辺の  
にぎわいフェスティバル」に協賛

「みずウオーク2009 水都  
大阪大会」で当社オリジナル  
Tシャツを着用し、参加者  
に水を配布しました。



日本TDM学会  
スウィーツセミナーを共催

6月14日、新潟で行われた  
第26回学術大会に共催い  
たしました。

日本病院薬剤師会関東ブロック  
「第39回学術大会」

8月29日・30日の2日間に  
わたり長野市で開催された  
大会にポスター発表、ブ  
ース出展しました。

4月

5月

6月

7月

8月

9月

「アムロジピンOD錠」が、  
「2009年最優秀ジェネリック  
医薬品賞」受賞

ジェネリック医薬品協議会  
から、「RACTAB」技術の  
確立、先発品OD錠の発売  
前のジェネリック品の開発な  
どの理由により受賞しました。



日経健康セミナー21  
スペシャルに協賛

大阪市中央公会堂で開催  
されたセミナー「“賢く”“お  
得に”健康を保つためのセ  
ルフメディケーションリテラ  
シー」に協賛しました。

日経健康セミナー21  
スペシャルに協賛

大阪商工会議所で開催され  
たセミナー「家計に優しいジェ  
ネリック医薬品について学ば  
う」に協賛しました。

読売新聞朝刊にカラー  
広告を掲載(9月26日)



薬価基準追補品収載、12成分14品目を発売

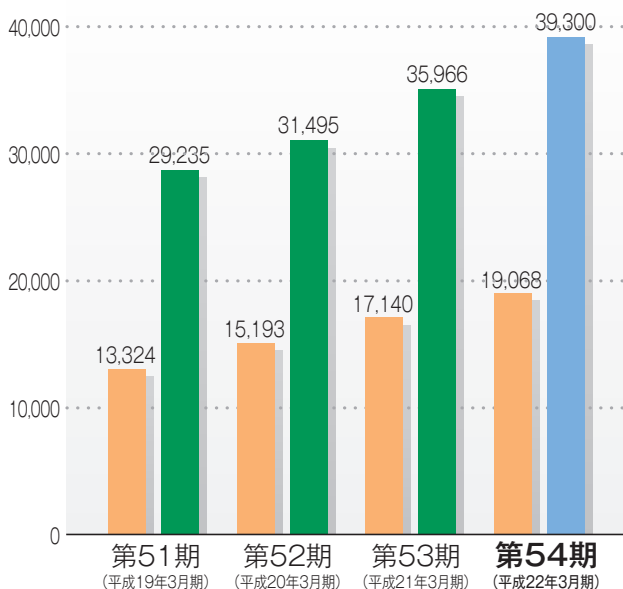
抗消化性潰瘍剤ランソプラゾールOD錠15mg/  
30mg「トール」、広範囲経口抗菌剤レボフロキサ  
シン錠100mg「トール」などを新発売。

# 業績の概要

## 業績ハイライト

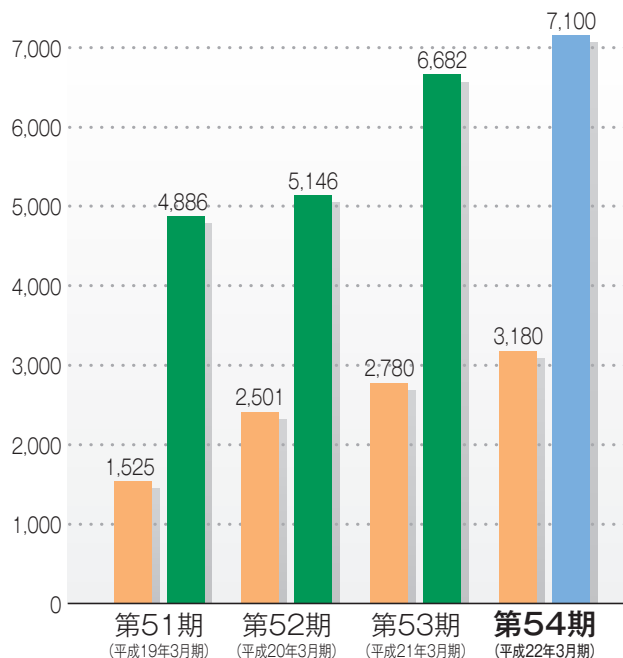
### 売上高(連結)

(百万円) 50,000  
■ 第2四半期累計 ■ 通期 ■ 通期予想



### 経常利益(連結)

(百万円) 8,000  
■ 第2四半期累計 ■ 通期 ■ 通期予想



## 当第2四半期(連結)の概況

当社グループは、ジェネリック医薬品の需要拡大が見込まれる保険薬局、病院市場で取引き軒数の拡大を目指した営業活動を展開しました。また、引き続き適正価格販売を維持し、血管拡張剤アムロジピンをはじめ、高脂血症治療剤マイバスタン、アレルギー性疾患治

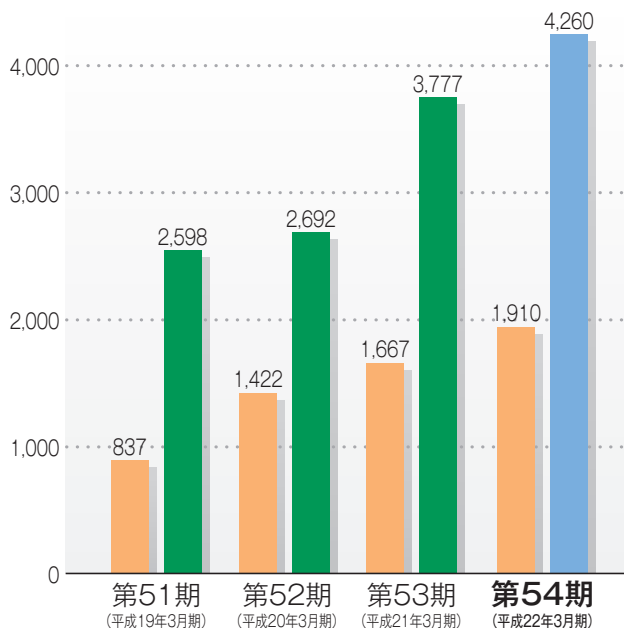
療剤エルピナン、消化性潰瘍用剤ファモスタジンなどの主力品目の販売拡大に努めました。特に、アムロジピン製剤のジェネリックとして当社のみがOD錠(水なしで服用できる口腔内崩壊錠)を発売したアムロジピンOD錠「トーフ」は、その製剤的優位性が市場で高く評価され、

売上拡大に大きく寄与いたしました。

この結果、当第2四半期累計(6か月)の当社グループの売上高は、19,068百万円(前年同期比11.3%増)となり、営業利益は3,748百万円(前年同期比42.1%増)となりました。一方、平成21年3月末から8円2銭の円高になったことに伴い、

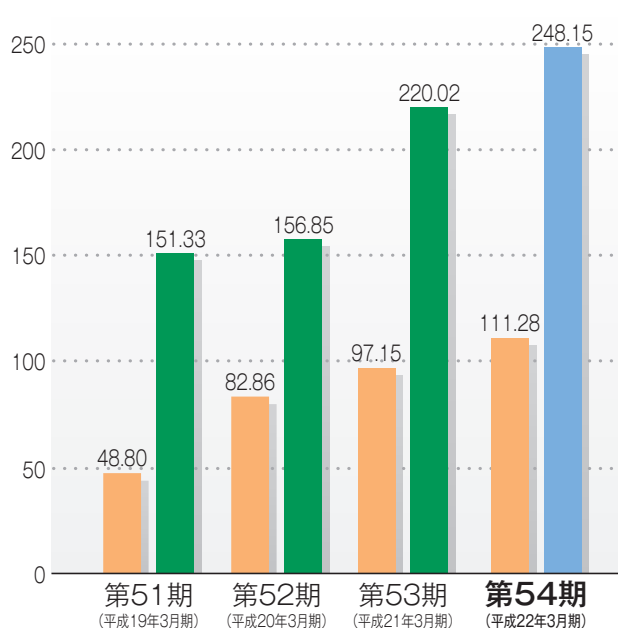
## 四半期純利益(連結)

(百万円) 第2四半期累計 通期 通期予想



## 1株当たり四半期純利益(連結)

(円) 第2四半期累計 通期 通期予想



445百万円のスワップ評価損を計上したことなどにより、経常利益は3,180百万円(前年同期比14.3%増)となり、第2四半期純利益は、1,910百万円(前年同期比14.6%増)となりました。

## 通期の見通し

当第2四半期の連結売上高は当初計画をわずかに上回る水準で推移しました。第3四半期以降につきましても、当初計画どおりの売上推移を見込んでおり、通期の売上高予想は第2四半期の当初計画からの上ぶれ分を修正いたしました。

一方、利益につきましては、為替相場において現在の円高水準が続くと見込み、第2四半期で計上したスワップ評価損を通期でも計上するという前提で、経常利益及び当期純利益を平成21年5月14日公表の数値からそれぞれ下方修正しております。

# 中期経営計画と推進状況

## 当社中期経営計画(2008~2010)

当社グループがめざすべき企業像

### 信頼


患者さんに、医療機関で働く方に、社会に、そしてこの会社で働くすべての人に信頼される会社であり続ける。

### ジェネリック医薬品(GE)トップメーカー

日本市場を基盤としたGEメーカーとして、信頼性及び売上規模でトップレベルの実力を有し、医療の未来に貢献する。

### 売上高2012年度500億円

その結果として、売上規模で2012年度に500億円、将来的には1,000億円をめざす。



### 信頼性の確立

取締役 信頼性保証本部長  
野口 豪

#### ■「医薬情報部」を設立し、情報を一元化

昨年、医療関係者など外部からの問い合わせにも迅速かつ、的確に対応することを目的に、「医薬情報部」を新設しました。現在は、情報をペーパーベースで収集、電子媒体へと落とし込む作業がほぼ終了し、素早く情報の検索ができる「マイクイック」システムへの登録を進めています。複数の部署で管理している情報を一元管理できる上、情報の共有化により、プロモーション活動をバックアップする体制づくりが整います。



#### ■順調に進む、「製品信頼性向上支援プロジェクト」

中期経営計画の中の「製品信頼性向上支援プロジェクト」の取り組みは、現在、順調に計画が進行中。一つ目のテーマ「自主基準による試験データの取り揃えWG」では、長期安定性試験と溶出試験を行い、信頼性向上のための確実なデータを揃えています。もう一つのテーマ「製品改良一変WG」も、生産本部の技術者と協力し進行しています。今後、本部内のチャレンジ精神の育成と、本部内外のコミュニケーションの活性化も目指し、よりよい体制の構築に取り組んでいきたいと考えています。



### 保険薬局・基幹病院の 新規取引拡大

取締役 営業本部長  
藤本 正義

#### ■基幹病院と保険薬局市場への積極的な取り組み

現在の取り組みの重点課題として、強みのある診療所市場に対しては引き続き注力すると共に、病院市場でも基幹病院の強化・拡大を目指し、新規取引獲得に努めています。今後の伸びが見込まれる保険薬局市場は、来年3月末までに、全市場の80%の薬局とお取引いただくことを目標に活動中です。また、現在注力している直販体制による基幹病院との取引は、今年9月までの1年間の新規取引の中ですでに70%を占めており、安定供給体制のアピールを強化しながら、今後も一層力を入れていきたいと考えています。



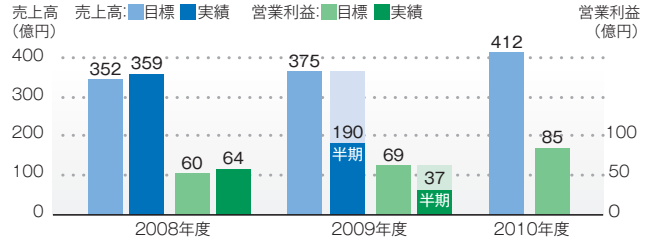
#### ■代理店・営業所網 連携システムの整備

10月から、代理店との連携システムを始動。このシステムにより、MRや代理店のMSを含め、実績をスピーディーに把握し、タイムリーな営業戦略を練っていくことを目指しています。今後の課題は、病院市場でいかにスピーディーにお取引いただくかという点と、MRのレベルアップ。さらに、直販体制についても、販売体制をより強化していくことに力点を置いていきます。

## 目標経営指標

当社グループは、企業価値の増大を図っていくために、重要な経営目標として、当面は売上高、営業利益を重視したいと考えております。2008年度は売上高359億円、営業利益64億円でしたが、中期経営計画において、2010年度の業績目標として、売上高412億円、営業利益85億円を掲げております。

## 中期経営計画数値目標・実績(連結)



### ■ 計画的に、付加価値の高い製品を開発

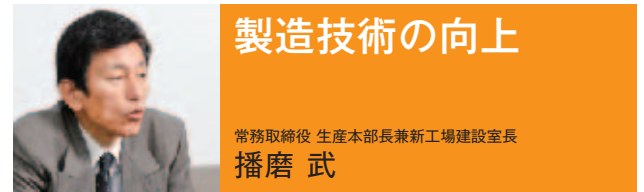
中期経営計画に合わせた「付加価値の高い製品の開発」という課題については、初年度である昨年、外部の大学や医療関係者からのヒアリング、製品研究を行い、ジェネリックの付加価値についてさらに認識を深めました。

2年目である今年は、研究開発を進めると同時に、営業、生産、信頼性保証などの情報共有に基づいた製品企画ができる本部横断的な仕組みづくりに取り組んでいます。今後は、「いかに東和の製品を選んでいただけるようにするか」を課題に、総合的な視点からの製品開発を目指していきます。

### ■ 信頼性向上に向け、開発プロセスを見直し

研究開発を着実に進めるために、ハード、ソフトの両面を見直し、整備中。開発プロセスについては、確実な計画進行による信頼性向上を目指し、開発進捗状況を可視化し、組織だって考えることのできる体制を整備しています。

現在の重点課題は、「人の育成」。広い視野に立って物事を判断できるスペシャリストの育成に努めていきたいと考えています。



### ■ 安定供給のための生産体制づくりを推進

「信頼のできる製品を、競争力のあるコストで、安定的に供給すること」を目指しています。各工場は大阪工場なら糖衣とフィルムコート錠、岡山工場なら素錠、顆粒、散剤といった様に、それぞれの工場の特徴づけを行なっていますが、安定供給に関してはもう一つの工場で他工場の製品のバックアップ生産ができるように取り組んでいます。現在、山形に新工場の建設を計画していますが、新工場が完成すると生産体制のハードが確立します。また、無菌製品は新工場での集約生産となりますが、安定供給のため、製造棟は免震設備を備えています。

▼山形新工場完成予想図



※完成イメージ図ですので、詳細は異なる場合があります。

### ■ コスト意識の徹底を目指す

生産本部は①購買システムの強化により、3工場で高品質で安価な原料や資材を購入する、②生産スケールを上げ、生産効率を向上する、③操業ベースを8時間から16時間に切り替え、設備の稼働率を上げ、固定費を下げる、④設備部品の共通化を図り、部品点数と固定費を下げる、の4つの施策を行い、コストダウンに取り組んでいます。社内の意識改革を行って、コスト意識を徹底させると共に、変革を積極的に進めていきたいと思っております。

# 連結財務諸表(要約)

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前期 (平成21年 3月31日現在)	当第2四半期 (平成21年 9月30日現在)	増減
<b>(資産の部)</b>			
<b>流動資産</b>			
現金及び預金	2,912	8,184	5,272
受取手形及び売掛金	13,902	14,041	139
有価証券	512	323	△189
たな卸資産	9,435	9,583	147
その他	1,687	1,331	△356
貸倒引当金	△40	△283	△243
<b>流動資産合計</b>	<b>28,410</b>	<b>33,180</b>	<b>4,770</b>
<b>固定資産</b>			
建物及び構築物	7,612	7,512	△100
土地	5,689	6,600	911
その他	3,097	3,067	△29
<b>有形固定資産合計</b>	<b>16,399</b>	<b>17,180</b>	<b>780</b>
<b>無形固定資産合計</b>	<b>229</b>	<b>270</b>	<b>40</b>
<b>投資有価証券</b>	<b>2,296</b>	<b>2,019</b>	<b>△277</b>
その他	930	801	△128
貸倒引当金	△27	△29	△2
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>3,198</b>	<b>2,790</b>	<b>△408</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>19,828</b>	<b>20,241</b>	<b>413</b>
<b>資産合計</b>	<b>48,238</b>	<b>53,422</b>	<b>5,183</b>

### 有形固定資産

山形新工場の用地取得(910百万円)が主な増加要因であります。

### 投資有価証券

債券の償還(98百万円)や評価損(217百万円)の計上が主な減少要因であります。

(単位:百万円)

科目	前期 (平成21年 3月31日現在)	当第2四半期 (平成21年 9月30日現在)	増減
<b>(負債の部)</b>			
<b>流動負債</b>			
支払手形及び買掛金	4,330	4,150	△180
未払法人税等	1,698	1,376	△321
引当金	58	29	△29
その他	3,155	3,295	140
<b>流動負債合計</b>	<b>9,242</b>	<b>8,851</b>	<b>△391</b>
<b>固定負債</b>			
<b>長期借入金</b>	<b>—</b>	<b>4,000</b>	<b>4,000</b>
引当金	152	193	41
その他	798	768	△29
<b>固定負債合計</b>	<b>950</b>	<b>4,962</b>	<b>4,011</b>
<b>負債合計</b>	<b>10,193</b>	<b>13,813</b>	<b>3,620</b>
<b>(純資産の部)</b>			
<b>株主資本</b>			
資本金	4,717	4,717	—
資本剰余金	7,870	7,870	—
利益剰余金	25,514	27,038	1,524
自己株式	△9	△7	2
<b>株主資本合計</b>	<b>38,092</b>	<b>39,619</b>	<b>1,526</b>
<b>その他有価証券評価差額金</b>	<b>△47</b>	<b>△10</b>	<b>36</b>
<b>純資産合計</b>	<b>38,045</b>	<b>39,608</b>	<b>1,563</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>48,238</b>	<b>53,422</b>	<b>5,183</b>

### 長期借入金

山形新工場の設備資金として借り入れたものであります。

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。



## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)	当第2四半期 (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	増減
● 売上高	17,140	19,068	1,928
売上原価	8,876	9,290	413
売上総利益	8,263	9,778	1,515
販売費及び一般管理費	5,625	6,030	404
営業利益	2,637	3,748	1,110
営業外収益	288	104	△184
● 営業外費用	145	673	527
経常利益	2,780	3,180	399
特別利益	330	1	△328
特別損失	309	23	△285
税金等調整前四半期純利益	2,801	3,158	356
法人税等	1,134	1,247	113
四半期純利益	1,667	1,910	242

### 売上高／売上原価／売上総利益

保険薬局、病院市場で取り引き軒数の拡大を目指した営業活動を展開しました。また、引き続き適正価格販売を維持し、主力品目の販売拡大に努めたことにより、売上高は前年同期に比べ、1,928百万円(+11.3%)の増加となりました。売上原価は413百万円(+4.7%)増加し、売上総利益は1,515百万円(+18.3%)の増加となりました。

### 営業外費用

平成21年3月末から8円2銭の円高になったことに伴い、445百万円のスワップ評価損を計上いたしました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)	当第2四半期 (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	増減
税金等調整前四半期純利益	2,801	3,158	356
減価償却費	875	832	△42
引当金の増減額(△は減少)	△232	342	575
売上債権の増減額(△は増加)	△211	△141	69
たな卸資産の増減額(△は増加)	△567	△147	419
仕入債務の増減額(△は減少)	△392	△180	211
その他	△67	778	845
小計	2,206	4,642	2,435
利息及び配当金の受取額	48	19	△28
利息の支払額	△4	△15	△10
法人税等の支払額	△1,000	△1,577	△576
● 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,249	3,068	1,819
定期預金の預入による支出	—	△4,000	△4,000
有形固定資産の取得による支出	△1,675	△1,655	20
その他	281	51	△230
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,393	△5,603	△4,210
長期借入金の借入による収入	—	4,000	4,000
配当金の支払額	△385	△388	△3
その他	△0	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△386	3,610	3,996
現金及び現金同等物に係る換算差額	28	7	△20
現金及び現金同等物の増減額	△501	1,082	1,584
現金及び現金同等物の期首残高	2,171	3,425	1,254
現金及び現金同等物の期末残高	1,669	4,508	2,838

### 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益や引当金の増加に加え、たな卸資産の増加額が前年同期に比べ減少したことなどのためです。

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

# TOWA'S NEWS&TOPICS

## 新CMで、「くすり」の夢と可能性を伝えていきます。

### 薬剤師さんを意識してCMを制作

2008年4月から、医師による「変更不可」の表示がなければ、薬剤師さんが患者さんと相談のうえ、ジェネリック医薬品を調剤してもいい、という処方箋の変更がありました。そこで、新CMではまず、調剤の主体である「薬剤師さん」を意識したCM作りを目指しました。

もっと飲みやすいくすりを



おいしいおくすりがあればいいのに

患者さんの気持ちにこたえるくすりを



### 企業姿勢と付加価値を「くすりのあした研究所」で表現

「くすりのあした研究所」に込めた思いは、薬の新たな可能性を追求している、東和薬品の企業姿勢をわかりやすく伝えたい、というもの。より飲みやすく、より良い薬へと独自の改良を加えている、東和のジェネリック医薬品。この「付加価値」を印象的に、優しく訴求でき、しかも温かみがあって、東和の風通しの良い雰囲気が感じられるCMが完成したと思います。

只今  
放映中



### 黒柳徹子さんも東和の姿勢に共感

出演していただいている黒柳徹子さんは、元々CMには出られない方ですが、薬を通じて社会貢献している東和の姿勢にご理解いただき、特別にご出演していただいています。

◆  
夢や可能性を広げていけるジェネリック医薬品。今後も、ジェネリック医薬品の可能性や未来、東和の医薬品に対する積極的な企業姿勢を、引き続き発信していきたいと考えています。

新CMは、東和薬品のホームページでもご覧いただけます！

トップページから、企業情報/企業広告をクリック!提供番組でもCMを放映していますので、どうぞご覧ください。

アクセスはこちらから  
<http://www.towayakuhin.co.jp/news.html>



# 会社の概況と株式の状況 (平成21年9月30日現在)

## 会社概要

社名	東和薬品株式会社
本社	〒571-8580 大阪府門真市新橋町2-11 TEL (06) 6900-9100 (代表)
代表者	代表取締役社長 吉田 逸郎
創業	昭和26年6月
設立	昭和32年4月
上場取引所	東京証券取引所市場第一部 (証券コード:4553)
資本金	47億1,770万円
事業内容	医療用医薬品の製造・販売 自社製品 459品目
従業員数	1,248名
取引銀行	三菱東京UFJ銀行 門真支店 みずほ銀行 守口支店 三菱UFJ信託銀行 大阪支店
研究所	中央研究所 製剤研究所
工場	大阪工場 岡山工場 山形工場
子会社	ジェイドルフ製薬株式会社 (医薬品製造販売)

## 株式の状況

発行可能株式総数	49,000,000株
発行済株式総数	17,172,000株
1単元の株式数	100株
株主数	5,356名

## 大株主一覧 (上位10名)

株主名	持株数	出資比率
(株) 吉田事務所	4,527千株	26.36%
(有) 吉田興産	2,000	11.65
吉田 逸郎	856	4.98
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	609	3.54
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント	538	3.13
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505044	470	2.74
ジェーピー モルガン チェース バンク 385078	373	2.17
東和薬品共栄会	361	2.10
野村信託銀行(株) (投信口)	318	1.85
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	314	1.83

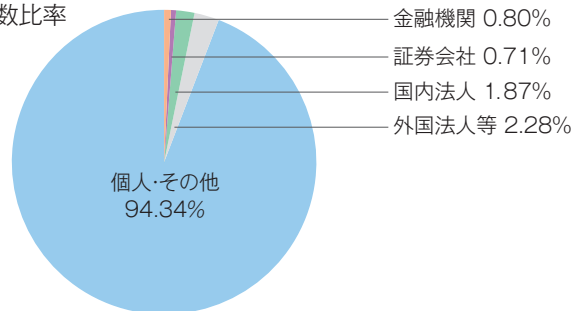
## 取締役及び監査役 (平成21年11月1日現在)

代表取締役社長	吉田 逸郎	常勤監査役	皆木 武久
常務取締役	播磨 武 <small>生産本部長 兼新工場建設室長</small>	監査役	山田 啓三郎
常務取締役	大澤 孝 <small>研究開発本部長</small>	監査役	森野 實彦 <small>弁護士</small>
取締役	藤本 正義 <small>営業本部長</small>	監査役	辻 弘 <small>税理士</small>
取締役	藪下 啓二 <small>管理本部長 兼総務部長</small>		
取締役	西川 義明 <small>企画本部長 兼経営企画部長</small>		
取締役	野口 豪 <small>信頼性保証本部長</small>		

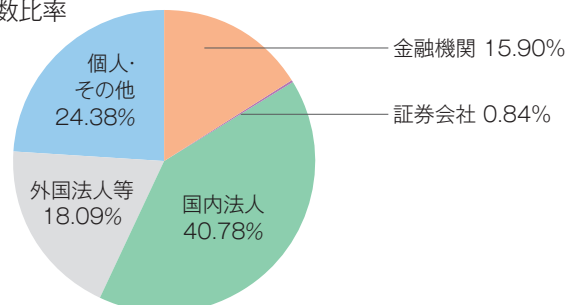
※は会社法 第2条 第16号に定める社外監査役です。

## 株主分布状況

株主数比率



株式数比率



# 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月に開催
- 剰余金の配当の基準日 3月31日、9月30日
- 1単元の株式数 100株
- 公告掲載方法 電子公告によって行います。  
<http://www.towayakuhin.co.jp/ir/koukoku.html>  
但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
- 株主名簿管理人ならびに  
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 〒541-8502  
(お問い合わせ先) 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号  
三菱UFJ信託銀行株式会社  
大阪証券代行部  
電話:0120-094-777 (通話料無料)

## ◎住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

口座を開設されている証券会社等にお申出ください。なお、特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

## ◎未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し付けください。

## ◎株式お手続き用紙のご請求(24時間受付)

三菱UFJ信託銀行株式会社  
本店証券代行部 電話:0120-244-479(通話料無料)  
大阪証券代行部 電話:0120-684-479(通話料無料)  
インターネットホームページ <http://www.tr.mufj.jp/daikou/>

## ◎見直しに関する注意事項

当報告書の記載内容のうち、歴史的事実でないものは将来に関する見直し及び計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見直しとは異なる場合がございます。



再生紙(古紙配合率100%)、大豆油インキを使用しています。

## ホームページのご案内 <http://www.towayakuhin.co.jp>

当社のホームページでは、最新のトピックスをはじめ、企業情報や財務情報などの、株主・投資家の皆様に役立つ情報も積極的に開示しております。ぜひご覧ください。



### くすりのあした研究所



黒柳徹子さんからのメッセージやテレビCM、ジェネリックに関するコンテンツを掲載しています。

### 医療関係者の皆様へ

製品情報も充実しています。

### 株主・投資家の皆様へ



- 業績・財務ハイライト
- IRライブラリー
- 電子公告
- IRカレンダー
- 株式事務情報



## 東和薬品株式会社

〒571-8580 大阪府門真市新橋町2番11号  
TEL:06-6900-9100(代表)  
<http://www.towayakuhin.co.jp>  
皆様からのアクセスをお待ちしております。